

○今月のみことば

A.T

貧しい人々にはふるまい与え、その恵みの御業は永遠に堪える。

詩編 112 編 9 節

喜んで与える人を神は愛して下さる。

コリントの信徒への手紙二 9章 7節

一年があっという間に過ぎてしまいました。振り返ってみると自分にとってどんな一年間だったのでしょうか。嬉しいことも、苦しいことも、辛いこともあったと思います。あれもこれも、きっと自分を成長させてくれたに違いありません。今、目の前に神様が新しい一年を下さっています。感謝の気持ちを持って、昨年できなかったことをやってみたいと思いませんか。聖書の言葉を思い出しながらある話が浮かんできました。

ある男性は大金持ちでしたが、自分の事しか考えなくて周りの人に要求ばかりして、人に何にも与えてきませんでした。どうしようもない人でした。もちろん、自分の生き方に満足していないし、心は寂しかったのです。ある橋の上から川の流れを見ていた時、そこへみすぼらしい身なりの男が通りかかり、「一杯のコーヒーが欲しいので、200円ありませんかね。」と彼に声をかけました。かれは「あります。200円よりももっとあります。」と答えました。財布の中には10万円もありました。彼がそれを取り出して、その男に投げると。「何のつもりですか。」と彼は言いました。「いいです。俺がこれから行こうとする先では、要らないものですから」と言いながら川の方を見ました。

男は投げ出されたお札を拾い集め、握りしめたまま、どうしたものかとしばらく考えていました。それから言いました。「いやあ、だめだめ、僕は乞食だけ臆病じゃない。僕は人様のお金を取るような真似をしない。このお金は川の中へでも持って行ってください。」と彼はお札を投げました。お札はひらひら舞いながらゆっくりと川へ落ちていきました。「さようなら、臆病おじさん。」そう言って彼は立ち去りました。

死のうと思っていた金持ちの男は息を呑みました。本当は彼にお金を貰って欲しかったのに、それが出来なかったのです。誰かに何かをあげたり、してあげたり「与えること」を彼はこれまでに一度もしたことがありませんでした。人に与えて幸せになるということは今まで経験したことがありませんでした。彼はもう一度川のほうを見てそこから離れ、乞食の後を追いました。自分の生き方に目が覚めたのです。

私はこの話を通して、みなさんに勧めたいです。新しい年の過ごし方は「与えること」です。時にはほほえみ、時には自分の時間をさし出し、時には人の話を聞いたりすることによって自分も幸せになります。試してみたいはいかがでしょうか。きっと、もっともっと幸せになりますよ。

生徒の心に語り掛けたいこと

国語科 R.T

「真実はいつも一つ！」某小学生探偵の決め台詞です。私はこの「真実」を追求する彼の姿を10年以上見てきました。ところが、この前、別の漫画を読んでいると、「真実は一つじゃないですよ」と言っている大学生が出てきて衝撃を受けました。その彼によると

「真実は人の数だけある」そうです。私はどちらの彼も好きなので、一方を排除し、もう一方を包摂するということはできません。そこで私は考えました。どちらの彼も謎を解く

「探偵」としてひとくくりにするのではなく、全く違う二人として扱えばいいのではないかと。

物事を多面的に見る、というのは日ごろからよく言われることですが、実際に行うのは難しい。だけど、自分と正反対の人物になってみるというのはどうでしょう？大事に取っておいたプリンを食べられても、「あ、この人はデザートを先に食べるタイプなんだ。」と。できる気がしませんか？そういう風に日常を過ごしてみると新たな考え方を手に入れることができる、と私は思っています。

